国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 27 年度採択企画
実施報告書

１．企画名

静岡県下田市におけるアカウミガメ保全のための勉強会

２．提案機関名

学校法人五島育英会東京都市大学

３．提案企画の概要

東京都市大学環境学部環境創生学科は 2011 年から毎年静岡県下田市にて「アカウミガメ保全のための勉強会」を行っています。本企画は、2015 年夏に開催予定の第 5 回勉強会、及びそれに伴う各種活動の提案です。この勉強会は、地球レベルの絶滅危惧種であるアカウミガメをシンボルとした沿岸域生態系を保全するための、地域社会の連携による自主的かつ具体的な活動の促進を目的としています。この連携を提案者は「里海バンキング」と称しています。「里海バンキング」とは、マルチステークホルダーが連携し、それぞれのニーズをかなえる場であり、生態系保全を中心としながらも、その地域の経済、社会、文化の保全や発展も同時に考えていくものです。

４．企画の特徴

本企画における勉強会は多様なステークホルダーを集めるマルチステークホルダー会議となっていることが特徴です。ちなみに、前回の「第 4 回アカウミガメ保全のための勉強会」は、環境アセスメント学会生態系研究部会共催、下田市及び伊豆急行株式会社協賛、環境省、静岡県、伊豆海洋自然塾、日本ウミガメ協議会、下田海中水族館、伊豆新聞、下田高校、体感型動物園 iZoo の協力のもと開催致しました。よって、今回も同様に多様な規模のステークホルダーを集めます。なお、第 4 回勉強会では、発表頂いた環境省関東地方環境事務局環境対策課、静岡県くらし・環境部環境局自然保護課野生生物保護班長、特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会、下田海中水族館営業課に加え、伊豆海洋自然塾の他、計 48 名の外部からの参加者、環境創生学科学生をもって、下田市における今後のアカウミガメの保全体制のあり方についてのパネルディスカッションを行い、保全活動の合意形成を行うことができました。このように多様なステークホルダー

を集め、合意形成を行う場を継続的に提供しているという点でも、勉強会の有益性が示されています。

また、本企画では、地球レベルの絶滅危惧種であるアカウミガメをシンボルとした沿岸域生態系の保全を、地域社会のマルチステークホルダー間の連携によって、自主的かつ具体的な保全活動の促進を目的としています。この連携を提案者は「里海バンキング」と称しています。「里海バンキング」とは、沿岸域の環境保全を進めたい側の参加だけでなく、ディベロッパーなどの開発推進側や一般市民や学生なども参加するマルチステークホルダーの集まる場であり、それらの間の連携によってそれぞれのニーズをかなえることを支援するものです。つまり、生態系保全を中心としながらも、その地域の経済、社会、文化の保全や発展も同時に考えていくものです。このような活動は、他の地域において里山や里海の保全活動を行う際のモデルになると考えられます。

５．総合所見

概ね目標とする成果が得られた。

本活動がマスコミにとりあげられたことは、アカウミガメの産卵に対する認識の向上に貢献したと思われる。また、伊豆半島ジオパーク推進協議会と協働出来たことも評価できる。しかしながら、ステークホルダーの多様化についてはサーファーや漁業関係者の参加が得られなかった点は残念である。今後は、里海里山バンキングとしての経済的に持続的な保全活動を可能にさせる仕組みを多様なステイクホルダーとの間で共有し、そのモデル構築を進めていただきたい。さらに、今回の経験をもとにより洗練された広報にも取り組んでいただきたい。

６．実施者からＰＲ・感想について

本活動は、2015 年度で 5 年目となる、東京都市大学環境学部環境創生学科学生による活動である。下田市沿岸域について、地球レベルの絶滅危惧種アカウミガメをシンボルとして、その保全と利用の方策を、大学生と地域住民の間で探るものである。

中でも、当学科主任教授が提唱する「HEP」（野生生物ハビタット評価手続き）や「里海・里山バンキング」（経済的に持続的な保全活動を可能にさせる仕組み）の導入の試みは、環境保全は経済発展を阻害するという従来の概念を打ち破り、環境保全活動は地域経済を活性化させ、また地域経済により環境保全活動が支援されるという WIN-WIN の良い循環、地域の環境保全と持続的な経済発展の両立を目指したものである。

このような活動の前提として、地域における異なるステークホルダース間の地域連携が不可欠だが、そのための「場」が、今年で 5 回目になる「アカウミガメ産卵地保全と利用のための勉強会」である。今後も下田市での勉強会は続けていく所存である。

本活動は伊豆新聞に3回、中日新聞に1回、CATV小林テレビでの放映、FMいずのくにへのラジオ出演などマスコミにも多く取り上げられている。

詳細は田中章研究室のHPを参照されたい。

http://www.yc.tcu.ac.jp/~tanaka-semi/

パネルディスカッションの様子

勉強会での発表写真

以上